

氏名	小野 美穂
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第5423号
学位授与の日付	平成28年 9月30日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Subjective evaluation of a peer support program by women with breast cancer: a qualitative study (乳がん患者が捉えた乳がんピアサポートプログラムの主観的評価：質的研究)
論文審査委員	秋元典子 教授、 谷垣静子 教授、 近藤真紀子 准教授

学位論文内容の要旨

乳がんピアサポートプログラムに参加した乳がん患者の捉えた主観的評価を明らかにすることを目的とし、A病院の乳がんピアサポートプログラムに参加した乳がん患者10名を対象に半構成的面接を行い、乳がん患者が主観的に捉えたプログラムの評価について質的帰納的に分析した。

乳がんピアサポートプログラムに参加した乳がん患者の主観的評価として以下9つのカテゴリーが抽出された。プログラム自体のメリットとして【ニードにあったピアサポートを個別に受けられる】、【研修を受けているピアサポーターは相談しやすい】、【優れたコーディネート】が挙げられ、実際に受けたピアサポートのメリットとして、【ピアならではの情緒的サポートを受けられる】、【特定の経験的な情報を得られる】、【自己を見つめ直す】、【前へ進むための準備を整える】が挙げられた。乳がん患者の感じたデメリットとしては、【個人情報管理の厳しさ】、【マッチングの限界】が明らかとなった。本プログラムは、検討すべきいくつかの課題を抱えながらもプログラムを受けた乳がん患者に多くのメリットをもたらしていることが分かった。本研究は、今後のピアサポート支援の促進に際し、意義あるものとする。

論文審査結果の要旨

論文審査要旨：

本研究は、研究者が開発した乳がんピアサポートプログラムに参加した乳がん患者の捉えた乳がんピアサポートプログラムに対する主観的評価を明らかにすることを目的に、本プログラムへの参加者10名を対象に、半構造化面接法を用いてデータ収集し、内容分析の手法を用いて分析し、どのように評価しているかを明らかにした研究である。

その結果【研修を受けているピアサポーターは相談しやすい】との評価が得られ、このことは、意図的にピアサポーターを養成することの意義を裏付ける結果であった。一方、コーディネーターがいるとはいえ【マッチングの限界】も明らかとなり、患者個々のニーズに応えられるピアサポーターをコーディネートすることの困難さも示された。

本研究により、意図的に養成された乳がんピアサポーターと医療者が参画する乳がんピアサポートプログラムの有用性が示唆され、プログラムの今後の継続の必要性とその意義に関する根拠が与えられたといえよう。分析手法にはやや課題があると考えられるが、今後さらなる学習によりクリアできると考えるため、本論文は岡山大学大学院保健学研究科博士論文としてふさわしい論文であると判断する。